



# ジョイフル

VOL.24  
2020.12.18 発行



## 山田 行宏 やま だ ひろ ぎ ひろ 管理部 参与

山田行宏さんは、1987年(昭和62年)南星キャリックス株式会社に入社。会社の発展とともに、30年以上歩んできました。現在は管理部の参与を務め、営業所を回ってドライバーの指導にあたっています。厳しい指導が有名で、ニックネームは「鬼の山田」。どのような思いを持った「鬼」なのでしょうか。

### — 現在のお仕事内容を教えてください。 —

毎月全営業所を回り、主に新人ドライバーの隣に同乗して添乗指導を行っています。運転の善し悪しを一通り見て、専用の用紙に点数とコメントを記入。その後、職員の方々に注意点を周知してお願いします。みんなでドライバーを見守り、育てているのです。

乗務歴20年ぐらゐのドライバーたちが、話を大げさにして私の噂を流すので、新人はびっくりしてしまうこともあります。だから、隣に乗る時はあまり仕事の話はしません。

せん。安全第一なので、緊張させてしまうのが危なっかしいので。趣味の話などをしながら、気楽に運転してもらおうようにしていますね。

### — 思い出に残っているお仕事を教えてください。 —

管理部門に移ってからは、様々な営業所を回りました。中でも記憶に残っているのは、2001年(平成13年)知立営業所が開設し、初代の所長として赴任したこと。一からのスタートで、利益を上げられるような営業所づくりに取り組んだのは、印象深い出来事でした。当時の部下が今の所長で、そうした取り組みを継続して営業所を大きくしてくれているので、感謝の気持ちもありますね。

ほかに、当時のお客様で、豊明のエースペイント株式会社という会社に半年ほど出向いて作業した時が思い出されます。私がそちらの現場にかかりつきりになっていた間に、知立営業所の方では車の事故が多く、何台も廃車に



なっていました。会議では「何をやっているんだ!」と、よく怒られたものです。知立には色々な思い出がありますね。

### — お仕事の上では、どのようなことに苦労されましたか。 —

以前は、よくドライバーと採め事になりました。管理者側の担当者配車を行った際、それがドライバーにとって気に入らなければ、怒りの矛先が所長に向くことも。「うまく交代で乗務できるように」という思いが、なかなか伝わりませんでした。犬山営業所の前

身である株式会社キョーユーサービスに出向した時には、ドライバーに灰皿を投げつけられた時もありましたね。所長はドライバーを守らなければならぬ立場ですので、管理者側とドライバーとの間に立って、採め事を丸く収めるには苦労しました。しかしありがたいことに、知立をはじめ半田や犬山にも、当時私が面接して入社したドライバーがまだ残っているのです。そのおかげで、営業所を回っていると、ドライバーから様々な情報を得ることができますね。

### — 趣味やリフレッシュ方法をお聞かせください。 —

みんなでわいわい楽しむことが好きなので、知立や半田のメンバーと毎年泊まりがけで釣りに出かけています。一杯飲んで本音を言える場を作ってあげないとね。愚痴を聞く羽目になる時もあります。スポーツをするのも好きで、小

学校5年生から50歳になる手前まで、サッカーを続けていました。今でも、孫と公園でサッカーをすることもありますよ。ずっと地元に住んでいるので、地元の人たちとゴルフに行く機会も多くなっています。

### — 今後について、どのようにお考えですか。 —

この先も、新人のドライバーの方がうまくトラックを乗りこなせるように、導く役割を担っていくつもりです。また、私が面接して



入社した人や若い管理者の中で何か相談事などあれば、話を聞いてあげたいと思っています。いわば、人を育てる手助けですね。一線を退いた身なので、縁の下の力持ちとして努めていきます。入社した頃は3つの営業所しかありませんでしたが、今は8つ目の豊明営業所を作っているところです。長きにわたり、南星キャリックスの一員として働けたことには感謝しかありません。この会社がさらに発展していくよう、心から願っています。

トラックという鉄の塊を動かすのですから、何よりも安全第一が大切。その点は厳しく指導します。営業所で私の顔を見たら要注意。ずっと変わらずに「鬼の山田」でいきますよ。

厳しさの裏には、一人前のドライバーを育てたいという強い思いがありました。これからも山田さんは、厳しさと愛情に満ちた「鬼」であり続けることでしょう。